令和５年度　Ｎｏ．15

銀杏坂

～輝く薩摩中央～

令和５年11月25日（土）　南日本新聞
令和５年11月26日（日）　南日本新聞

本校で行われた農産物即売会について，南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

令和５年11月25日（土）　南日本新聞

◆農産物の即売会にぎわう　さつま町の薩摩中央高校で17日あり、生物生産科と農業工学科の１～３年約100人が丹精込めてつくった新鮮野菜や花、ベーコンなどの加工品約30品目が並んだ。開始２時間前から買い物客の列ができ、町内外の約800人が買い求めた。薩摩川内市祁答院町黒木の農業米澤栄光さん（72）は「安くて味も良く、10年以上前から通い続けている」と話した。

令和５年11月26日（日）　南日本新聞

記者の目

さつま支局・山田天真

地域根ざす薩中生

「重たいので自分たちが車まで運びます」。今月中旬にあった薩摩中央高校（さつま町虎居）の農産物即売会で、作業着姿の生徒が高齢の買い物客らによく声をかけていた。一輪車を上手に操りながら、率先して重さ十数キロの堆肥などを運ぶ姿に好感を持った。

会場では薩中生が手塩にかけた産品を安く入手できるとあって、開始前から長蛇の列ができていた。防災行政無線による定時放送で開催案内もあり、人出の多さは予想していたが、あまりの盛況ぶりに驚き、地域密着の恒例行事と肌で感じた。

即売会は薩中生が消費者とじかに接する貴重な機会でもあり、作るだけでなく産品ＰＲのすべも求められるという。３年の寺地敦真さんは「１年時はほとんど動けなかったが、接客など少しは成長できたと思う。物を運び終えると、『ありがとう。頑張って』と感謝されるのが何よりの励み」と教えてくれた。

薩中生は毎回、こちらの取材に明るく応じてくれる。この愛きょうの良さは即売会のように、普段から地域の人たちとの交流で培われたコミュニケーション力のようにも思う。「生徒数は少ないが、農畜産業を通して地域を盛り上げたい」と熱く語る寺地さんはまぶしかった。「薩中生だから応援したくなる」と話す常連客に納得だった。

2023・11・26（日）